

水産庁・水産資源研究所の取り組み

本年度第3回 RACESセミナーでは、水産庁・水産資源研究所の取り組みを紹介します。水産庁漁港漁場整備部の中西 豪課長補佐から水産庁が実施している漁場環境改善事業を、水産研究・教育機構 水産資源研究所の塚原祥平主任研究員からは漁業情報に依らない、水産資源の新たな定量手法としての遺伝情報の利用についてご紹介いただきます。漁業・漁場改善の近年の取り組みについて学び直す機会としたいと思います。気軽にご質問いただける機会ですので、興味・関心をお持ちの方は、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

- テーマ 水産庁・水産資源研究所の取り組み
- 主催 一般社団法人 生態系工学研究会 (RACES)
環境研究総合推進費戦略プロジェクト S-23-3
- 日時 2025年12月20日(土) 14:00 ~ 16:50
- 場所 大阪大学大学院工学研究科オープンイノベーションオフィス
〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪ナレッジキャピタルタワーC 9階 (JR大阪駅などから徒歩5分)
Zoomによるオンラインのハイブリッド形式
- 申込 下記の登録フォームにてお申し込みください。
<https://forms.gle/iccMSquC6N3hXohE9>
- お問合せ 生態系工学研究会 事務局 e-mail: office@races.jp
- プログラム



14:00~14:05 趣旨説明

14:05~15:15 講演「水産庁が行う漁場環境改善手法について（マウンド礁、干潟保全を中心に）」

中西 豪 様 (水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課 課長補佐)

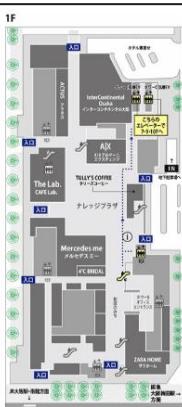
【講演要旨】水産資源の増殖に向けた手法の一つとして、海中への構造物の設置や海底の土質を改善する取組が従前より行われている。その中でも、平成19年度より開始された排他的経済水域(EEZ)内での直轄漁場整備の事例や平成28年に発生した熊本地震により干潟に泥が流入した事案に対処した事例について紹介する。

15:25~16:35 講演「遺伝情報などを活用した水生生物・水産資源の調査・評価」

塚原 祥平 様 (水産研究・教育機構 水産資源研究所(横浜)主任研究員)

【講演要旨】水生生物・水産資源は直接観察することが難しく、その資源量変動などの把握は漁獲量などの漁業情報からの類推が一般的であった。一方で、情報の過不足、偏りなどの懸念から、漁業情報に依存しない調査研究課題が注目を集めている。本講演では、その中でも近年飛躍的に発展を遂げている遺伝情報を用いた生物の調査、研究手法、いくつかの実例について紹介する。

16:35~17:00 ディスカッション



【大阪大学グランフロントイノベーションオフィス 会場案内】

<https://kc-i.jp/access/guide-09/>

・JR 大阪駅 徒歩 5 分

JR 大阪駅から連絡デッキ 2 階を通り、グランフロント大阪南館タワーAへ → そのまま直進し南館 2 階を通り抜け、連絡橋(2 階)で北館タワーBへ → 北館へ入った後エスカレーターで 1 階に下り、ナレッジプラザ(吹き抜け)の方向へ進み、TULLY'S COFFEE に沿って奥に進み、進行方向右手奥にタワーC オフィス入口(ガラス扉)があります。エントランスホールを奥に進むとエレベーターA・B があるのでエレベーターB にて 9 階まで上がってください。